

《薬局サーベイランスコメント》

『第 50 週のインフルエンザの推定患者数は 2 週連続で増加し、12 月中に流行が開始となる可能性もあるが、本格的な流行は 1 月以降』

2015 年 12 月 15 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬局サーベイランスからの 2015 年第 50 週（12 月 7～12 月 13 日）のインフルエンザの推定患者数は 11,984 であり、前週の値（第 49 週：8,250）を上回って 2 週連続の増加となりました。一方、まだ過去 5 シーズン（2010/2011 シーズン～2014/2015 シーズンの同時期と比較して最も低い値を推移していることには変わりはありません（図 1）。各都道府県別の第 49 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると福井県、秋田県、福島県、広島県、愛知県、東京都、奈良県、兵庫県、栃木県、新潟県の順となっています。休日明けの第 51 週の月曜日（12 月 14 日）の推定患者数は 4,218 と前週の月曜日の値（2,452）よりも大幅に増加していますが、やはりまだ過去 5 シーズンの同時期と比較すると最も低い値となっています。

2015 年第 36 週から第 50 週までの累積の推定患者数は、67,487（約 67,500 人）であり、年齢群別では 5～9 歳（13.8%）、30～39 歳（13.0%）、40～49 歳（12.8%）、10～14 歳（11.6%）、20～29 歳（10.2%）、50～59 歳（10.0%）、0～4 歳（9.4%）の順となっています（図 2）。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>）によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（141 検体解析）は、A/H3（A 香港）亜型が 51.8%と最も多く、A/H1pdm と B 型は共に 24.1%と同じ割合となっています。

インフルエンザの推定患者数は、第 49 週、第 50 週と 2 週連続して増加がみられましたが、過去のシーズンの同時期と比較してまだ低い水準を推移しています。ただ、ここへきて漸く前週の推定患者数よりも大きく増加する傾向となってきており、12 月中にインフルエンザの流行が開始となる可能性もあります。インフルエンザの本格的な流行は 1 月以降であると予想されますが、今後とも患者数の推移には注意深い観察が必要です。

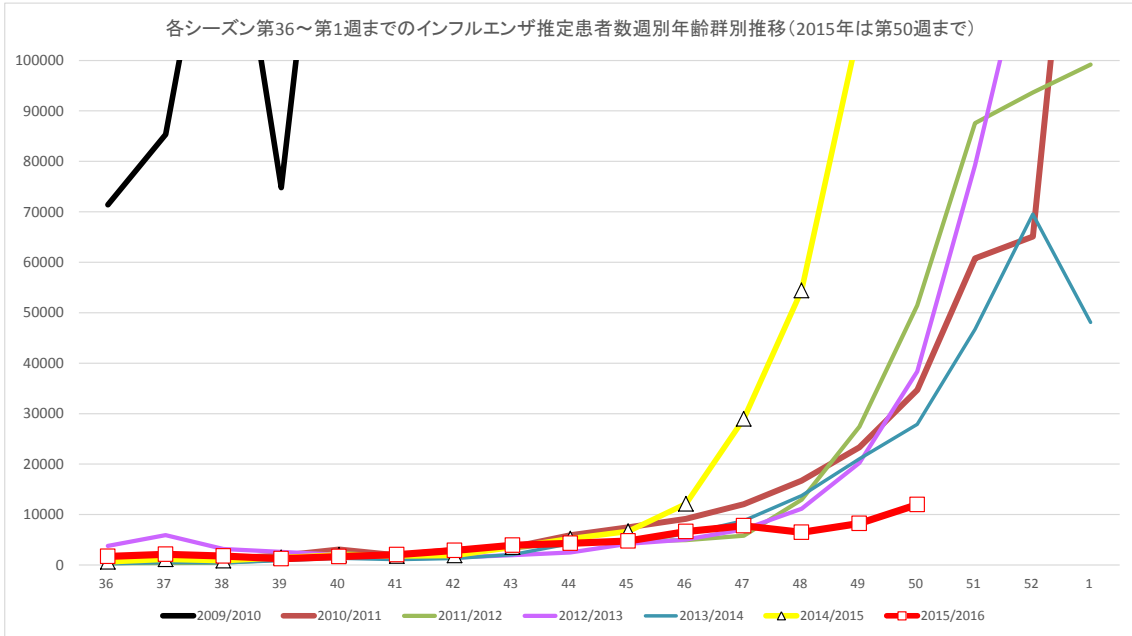


図 1. 過去 5 シーズンと今シーズン (2015/2016 シーズン) の第 36～52 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

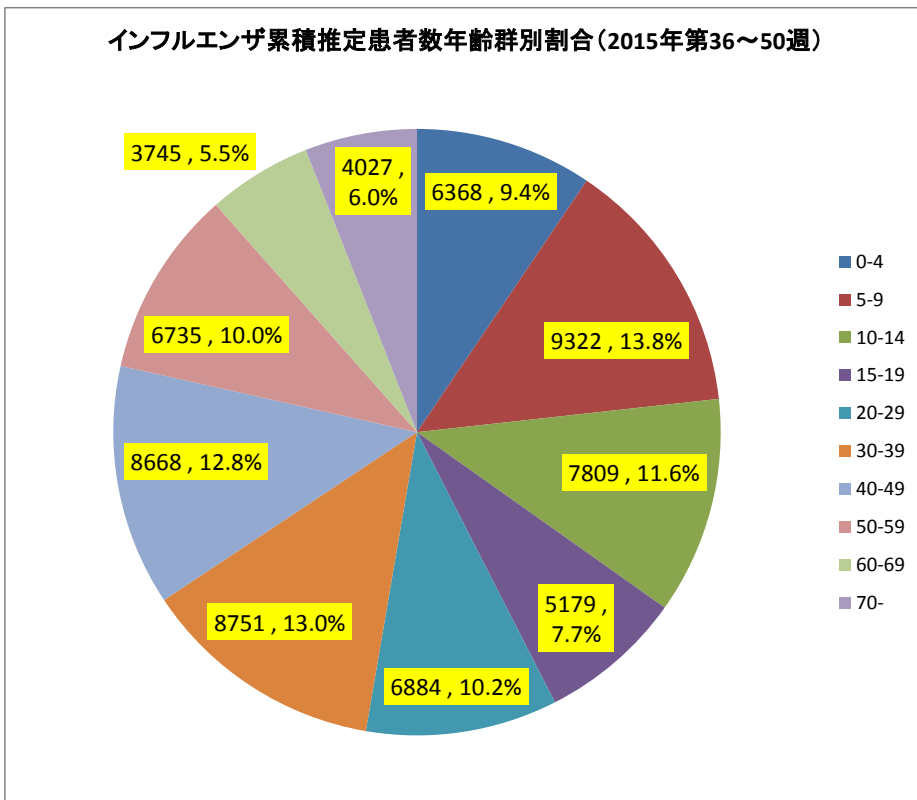


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2015 年第 36～50 週、累積推定患者数=67,487)

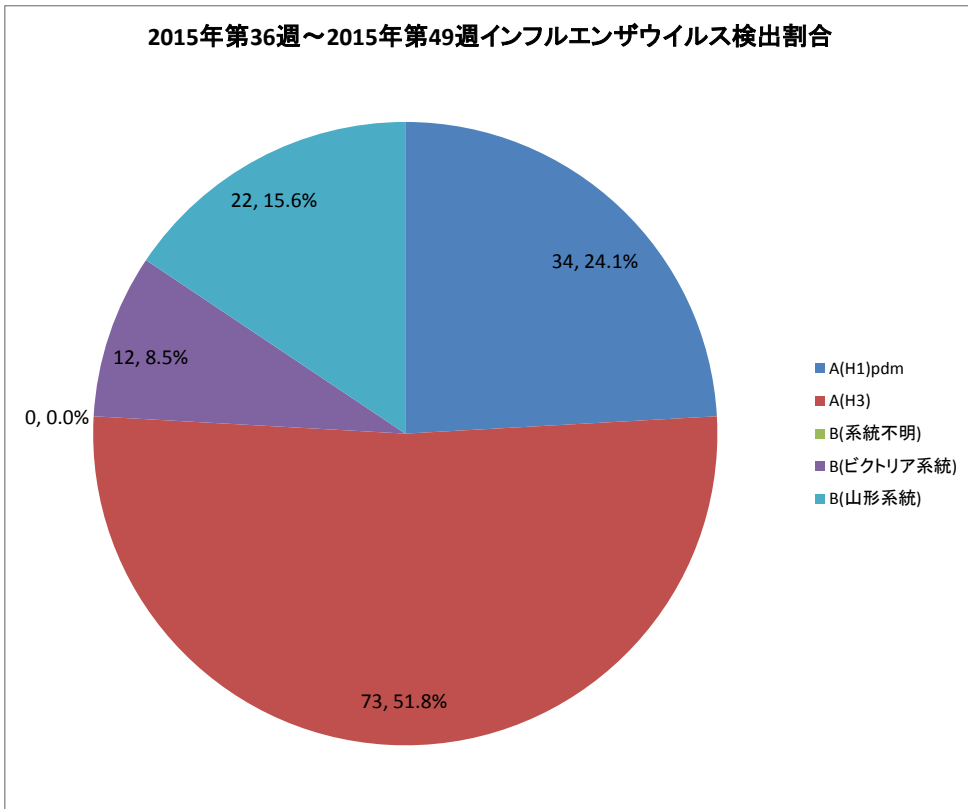


図 3. 2015 年第 36～49 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=141）